

2010 年度 小委員会活動成果報告

(2011 年 2 月 8 日作成)

小委員会名	地域文脈形成・計画史小委員会		主 査 名：木多 道宏 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画委員会		委員長名：小林 英嗣 主 査 名：
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画、建築計画、農村計画、建築・都市史の分野から先鋭的な研究を進めている研究者を委員に選定し、あるいは研究会に招き、「地域文脈」についての新たな研究体系の構築を行う。 ・都市や集落の歴史的事実を「再編集」する作業を通して、そこに継承されている空間性、社会性、計画の精神性、暮らし、記憶などの価値を読み解く。 ・積み上げられてきた価値の文脈を現代なりの方法で継承し、「進化」させていくためのデザイン論を展開する。 ・初年度は、「連続研究会」における議論と記録を基に、国内外における地域文脈の形成・継承の事例収集とそのしくみの解明、ならびにプランナーが果たした役割、生活文化の影響等に関する考察を行う。 ・2年度は、引き続き「連続研究会」を開催し、国内外における地域文脈の形成・継承、プランナーが果たした役割に関する考察を継続し、4年度の出版に向けて、都市の時代移行を捉える視点を体系化する。 ・3年度は、「連続研究会」の最後として、継承の担い手のしくみについて考察する。4年度の出版に向けて、日本と海外との影響関係の解明、1年度・2年度成果の総括による「近代化」の意味解釈などを行いながら、地域文脈の概念の体系化を行う。また、前身の都市形成・計画史小委員会からの公開研究会を開催し、「開港都市」に関する新しい論点やパースペクティブを切り開く。 ・4年度は、出版と同時に大会研究集会にて成果公表を行う。また、繊細な文脈の解説をいかにデザインに結びつけるかの公開討論を行う。 		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有り (3名) 主査：木多道宏 (大阪大学) 幹事：中島直人 (慶応大学)、土田 寛 (東京電機大学) 委員：宇杉和夫 (日本大学)、中野茂夫 (島根大学)、 鵜飼 修 (滋賀県立大学)、阿部大輔 (東京大学)、青井哲人 (明治大学)、 岡絵理子 (関西大学)、岡部明子 (千葉大学)、川島智生 (京都大学)、 黒田泰介 (関東学院大学)、篠沢健太 (大阪芸術大学)、 高村雅彦 (法政大学)、松山 恵 (法政大学) WG からの参画委員：加藤仁美 (東海大学)、安田 孝 (摂南大学) 清野 隆 (立教大学)、田中 傑 (東京理科大学)		
設置 WG (WG 名：目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・計画理念研究 WG (日本ならびに諸外国を対象に、文脈を読み込んだ地域のマネジメントの理念・思想的根拠を整理) ・地域形成史研究 WG (地域文脈の解明・事例収集と、「近代化」・「時代移行」の概念の考察) ・地域マネジメント研究 WG (日本ならびに諸外国の都市・地域を対象に、文脈を読み込んだ地域のマネジメントの方法を検証) 		
2010 年度予算	280,000 円	ホームページ公開の有無：無し 委員会 HP アドレス：無し	

項 目	自己評価
委員会開催数	4回（年度内計画を含む）
刊行物 （シンポジウム資料等 は除く）	
講習会	
催し物 （シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等）	
大会研究集会	
対外的意見表明・ パブリックコメント等	
目標の達成度 （当初の活動計画と得 られた成果との関係）	<p>1. 連続研究会全6回のうち、第3回「計画と形成」（青井委員、中島委員、田中委員、安田委員）と、第4回「都市・集落の生態的組織」（黒田委員、清野委員、ゲスト・黒野弘靖先生）を実施した。第5回「近代的計画に『転写』された地域構造の解説と継承」を3月に予定している。</p> <p>2. 当初は、全6回のシリーズとして、①社会主義・全体主義から解放された都市、②更新と文脈継承、③計画と形成、④都市・集落の生態的組織、⑤計画と文脈継承、⑥継承の担い手・しゅくみを計画していたが、出版事業における編集内容との関係を考慮した結果、第5回以降を次のように再編し、全8回に回数を増やすこととした。</p> <p>⑤近代的計画に『転写』された地域構造の解説と継承（篠沢委員、木多委員、ゲスト・Jan Plivka 先生：ドイツ・ドルトムント工科大学）</p> <p>⑥東京の都市形成の再評価（松山委員、田中委員、ゲスト・岡本哲志先生）</p> <p>⑦都市計画の文脈を読む（中島委員、中野委員、川島委員）</p> <p>⑧継承のしゅくみ・担い手（土田委員、鶴飼委員、ゲスト・候補を検討中）</p> <p>3. 非公開型・少人数の研究会を連続的に開催することによって、各委員があたりあてている仮説や未発表の知見を提示し合い、想定外の新しい概念や認識を得ることが当初の最も重要な目的である。</p> <p>各WGの活動報告で後述するように、海外と日本の諸都市を対象に、近代的諸制度・都市計画の都市形成からみた再評価、都市の時代移行を可能にする空間システムのしゅくみ、集落と都市に共通する「生態的組織」の形成原理など、あらたな学術的認識の発見と体系化を進めている。</p>
委員会活動の問題 点 ・課題	<p>1. 各委員が蓄積している実績を基に深い議論を展開し、どのように新たな知見や論点に結びつけるか。各連続研究会での討論によってたまたま「発見」することがあり、際限なく続く討論の時間の確保が難しい（研究会1回当たり、4時間以上も時間を費やしてしまうため、日程調整にも苦労している）。</p> <p>2. 委託出版の交渉</p> <p>3. 在地方委員の交通費</p>

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。